

山形県教育委員協議会の概要

1 日 時

令和8年2月9日（月）15時03分～15時34分

2 場 所

山形県庁舎教育委員室

3 意見交換テーマ

公立高校をめぐる国の動向と今後の県立高校の在り方について

4 主な発言要旨

- ◇ 先日参加した全国都道府県教育委員会連合会において、文部科学省より公立高校をめぐる国の動向について説明を受けた。その趣旨は人材のミスマッチを解消するために、公立高校が社会のニーズに合った人材を育成するというものであった。その手法の一つとして、アドバンスト・エッセンシャルワーカーなどの産業イノベーション人材の育成を図るため専門学科を設置するなど、専門高校の魅力化や地元産業の担い手育成に資する取組みに係る経費を国が支援するという内容があった。

本県では米沢鶴城高校で専攻科が設置されていたり、他の産業系高校においても様々な取組みがなされているが、国におけるこのような動向は、今後の県立高校の在り方を変革させる一つのきっかけになるものと考えられる。（小関委員）

- ◇ 村山産業高校では、卒業生における就職後の離職者がほとんどいないという話を聞いたことがある。これは、中学校の段階から自分がやりたいことを具体的にイメージし、専門的な知識を得ようと高い意識を持って高校に入学してくる生徒が多く、入学後も積極的に学んでいることが背景にあるものと考えられる。（小関委員から説明のあった）国の動向を踏まえると、県立高校の今後の在り方、特に、産業系高校の今後に前向きな影響を与えるものと考えられる。（和田委員）

- ◇ 県立高等学校ポータルサイトにおいて、将来自分のなりたい職業を入力するとマッチングする県立高校を教えてくれる機能ができれば、生徒や親も興味を持つのではないかと。また、県外生の受入れで最も重要なことは、衣食住の環境整備と考えられるため、それに対する支援を充実させることが、県外生の入学者増につながるのではないかと。（和田委員）

- ◇ 産業界の人手不足を子ども達への教育に結び付けることが妥当かどうかは悩ましいものと考えている。産業界の人手不足に対しては、本来は待遇の改善により対応すべきものと考えられる。教育分野において産業人材育成を進めることが、子ども達の選択肢を早い段階で決めることにより良い影響をもたらすのか、子ども達の可能性を狭めてしまい悪い影響をもたらすのか、今後しっかりと検討していく必要があると考える。（手塚委員）

- ◇ 現在、高校無償化が話題となっており、将来的に私立高校を選択する子どもが増えると思われるが、私立高校では授業料以外の費用もかかることを認識する必要があると考えられる。県立高校と私立高校にかかる様々な費用を試算して可視化し、その状況を踏まえて県立と私立の選択をしていくべきではないか。「無償化」という言葉が一人歩きして安易な選択をしてしまうのではないかと心配される。(工藤委員)
- ◇ 県立高校は、地域に貢献する人材を育成し、地域を支える役割を担っていると感じている。優秀な人材の輩出と併せて、子ども達が将来、地域に貢献することをイメージできるよう、県立高校の情報発信が重要と考える。その具体的な方策として、(和田委員が発言されたマッチングの例に加えて) 子ども達や保護者の心に響くような学校の魅力発信となるよう、既存の紙のパンフレットだけでなく、メディアやSNSとの連携など、専門家などの情報発信に習熟した方の視点を入れながら相乗効果を図り発信していくことが考えられる。(工藤委員)